

令和5年度 学力向上プラン

長崎市立茂木小学校

・関係法規
・学習指導要領
・県・市教育方針

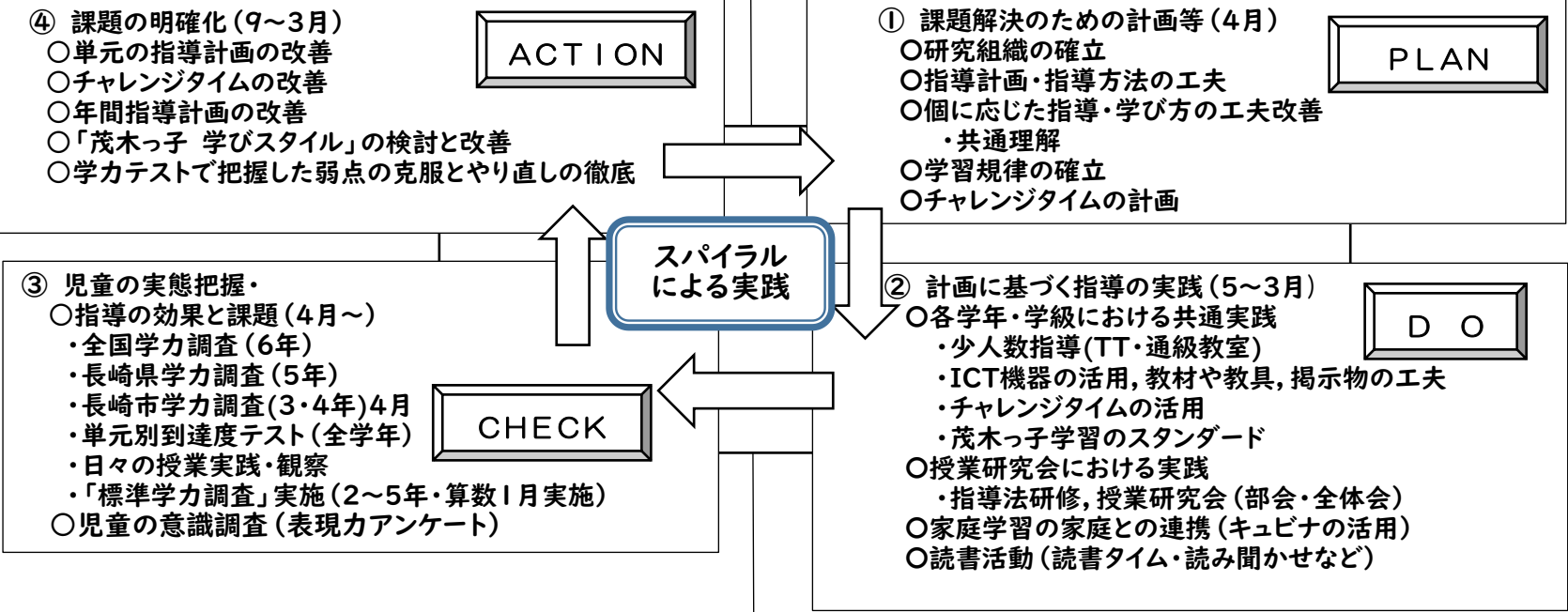
学校教育目標
豊かな心を育み、主体的に学ぶたくましい茂木っ子の育成
～気づき、考え、実行する 茂木っ子をめざして～

・児童、地域の実態
・保護者、教師の願い
・期待される児童像
・学力向上に係る課題

本校の課題
・題意を捉えられない。
・自分の考えを、根拠を示して説明することができない。

重点努力目標（学力向上にかかわる目標）
「基礎的・基本的内容の徹底と、表現力の向上」
※標準学力テストにおいて、学校平均と標準平均との差を5ポイント以内にする。

重点努力事項
「しっかり学び合う子ども」→ ※重点施策「確かな学力の向上」、「あじさいスタンダード」の活用
◎ 基礎的・基本的内容の徹底と確かな学力の定着（国語チャレンジ、算数チャレンジを週1回ずつ）
◎ 少人数指導の推進・充実（1年～6年生の算数に担任以外の先生1名配置）
◎ ICT機器の活用（1日に1回 ICT 機器や授業におけるクロームブックの活用）
◎ 学習規律の定着と学び方の習得（「茂木っ子 学習のスタンダード」「よくわかる茂木小」の活用・定着）
◎ 考えをもち、豊かに伝え合う児童の育成を目指す。（表現力を豊かにする指導法の工夫）
◎ 家庭学習の習慣化（「よくわかる茂木小」「家庭学習の手引き」の充実・活用）



	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学力調査等から見える課題	国語 ・ひらがな、カタカナを筆順どおりに書くこと。 ・「だれが(なにが)どうする」を意識して読み書きすること。 ・文節を意識しながら読むこと。	・文や文章を正しく読み、適切な答えをさがすこと。 ・自分の思いを文章で書くこと。 ・話すこと、聞くこと	・自分の思いや考えを文章で書き表すこと。 ・漢字やカタカナで正しく表記すること。	・国語辞典の使い方を理解すること。 ・主語と述語の関係を理解すること。 ・物語の場面の様子や説明文の段落の内容について叙述を基に捉えること。 ・段落の役割について理解し、構成を考えて文章を書くこと。	・文章を読んで、その内容を要約すること。 ・文字数などの条件付き作文。 ・文を作る上での基本的なルール。 ・文法（主語・述語・修飾語）、文節	・資料を読み取り、読み取ったことや自分の考えなどを、条件に合わせて書くこと。 ・文章全体の構成や展開が明確になっているかなど文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
	算数 ・正しく数を数えること。 ・正しくたし算とひき算をすること。 ・題意を正しく理解すること。	・長さ めもりの読み取り 単位の変換 ・時刻 ○分前と○時間後、長さ、単位の換算 ・かさ 単位の換算 ・文意に沿った立式（特にひき算）	・文章問題を正しく把握し、立式して解くこと。 ・時間と時刻の理解。 ・加法や減法、かけ算の計算を正しくすること。 ・図形の理解。	・分数のしくみを理解すること。 ・整数と小数の計算の仕方を理解すること。 ・図形の特徴について理解し、説明すること。	・分数の意味や表し方を、正しく理解すること。 ・文字を使った式 もとにする数と比べる数との関係 ・題意を理解し、情報を整理して解決に導くために、図や表を活用して立式すること。 ・立式の説明	・資料を読み取り、読み取ったことを正しく表現すること。 （式、文章、発表など） ・割合の意味など、学習用語を理解し、活用すること。 （他教科においても）

具体的な取組	チャレンジタイムを通して（キュビナ・アシストシート・読解ワーク等の活用） ～「文章を読み取る力の育成」「基礎・基本の定着」～					
	国語	・音読指導に重点を置き取り組む。 ・姿勢や鉛筆の持ち方を意識して書く。 ・「だれが(なにが)どうする」を意識した正しい読み書きの指導	・前学年の学習を含めた基礎・基本の定着を図る。 ・ひらがな、カタカナ五十音の正しい読み書き、促音・拗音長音等 ・漢字小テスト ・音読 ・読み取り教材で、答えとなる部分に印をつける練習。	・授業の中で、文章を作る機会を多く設定し、書くことに慣れさせる。 ・条件作文に取り組む。 ・漢字の小テストを計画的に行い、理解の定着を図る。	・国語辞典を活用する機会を増やすことで、語い力をつけていく。 ・文章に線を引いたり書き込んだりしながら、主語と述語の関係を捉えさせる。	・まずは、基本的な作文のルールを確認し、一文の作文から始め、二文、三文と文の量を増やす。最終的に条件付き作文へ、ステップアップする。 ・練習で完成した作文を要約の課題として使う。 ・文法について簡単に説明し、作文のルールと並行して、言葉の組み立て方について練習する。

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
算数		<ul style="list-style-type: none"> 正しく数える方法を指導する。 題意の正しい読解と正しい答え方を指導する。 時間内に決められたし算、ひき算を答えるテストを行う。以上の内容を中心に、習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題で上がった単元の復習。 長さの単位変換では、どちらの単位も表記してあるものさしで確認しながら解く。 時計の問題では、学習者用時計を使って、実際に針を動かしながら考えさせる。 ひき算の立式で小さい数から大きい数を引こうとするため、文章の状況が想像できるよう、教師が図を描いたり、具体物を操作したりし、それをヒントに解いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> キュビナやプリントでの学習を通して、加法や減法、乗法や除法など、子どもたちが苦手としている課題に繰り返し取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> キュビナやプリントを使って、苦手としている単元の復習を繰り返す。 計算力を高めるために、時間を意識して問題に取り組ませる。 問題では、分かっていること、尋ねられていること、答えの単位に印をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> キュビナやスキルを活用し、簡単な問題から取り組ませ、題意の掴み方を反復で練習する。 問題を解く際は、作図→立式→説明をセットにする。 立式の説明は、型をいくつか提示し、その型にあてはめて説明できるように練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> キュビナやスキルを活用し、チャレンジタイム、宿題で割合の基本的なところから復習問題に取り組ませる。また、授業でも概念理解ができるように解説をしていく。 社会科など、教科を問わずデータ分析の場面では、「どこを見るか」「データからどんなことが分かるのか」など、ただ数値を見るだけではなく、その先の思考をできるように発問を工夫する。 既習の図形に関しては、応用問題を中心に練習に取り組ませる。
		<p>【特別支援教育】</p> <p>「茂木っ子タイム」を設定し、共通理解を図る。</p> <p>・正しい姿勢の取り方 ・鉛筆を正しい持ち方 ・運筆練習 ・消しゴムの消し方 ・眼球運動 ・ビジョントレーニング</p> <p>・集中して聞こう ・記憶トレーニング など</p>					
<p>授業を通して</p> <p>～「学習規律の定着」「めあて・まとめを表記し、学習内容の明確化」「考えをもち、豊かに伝え合う児童の育成」～</p>							
国語		<ul style="list-style-type: none"> 指読み、追い読み、一斉読みなど変化のある音読を通して、音読の楽しさを味わわせる。 筆順の色を決め、視覚的に正しく字を書けるようにする。 日記など、書く活動を日常的に行う。 確認しながら聞くことで、自分が聞き取ったことを確かめる活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読(一人読み・一斉読み)や書く活動を必ず入れて計画を仕組む。 まずはテンプレートに当てはめて、自分の考えを書いていく。 習得した漢字は、積極的に利用していく。語句を正しく習得できるように、「ことばのたからばこ」を活用する。 話す際は <ul style="list-style-type: none"> ①自分の考え ②理由 と順序立てて話すよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習中に書く活動を積極的に取り入れていく。 中心発問を設け、必ず考える活動を通して、自分の考えを説明する場を設ける。教師が支援しながら、論理的な発言の仕方や述べ方、考え方を指導していく。 国語辞典を使って、たくさん言葉の意味調べを行い、辞書を引く習慣をつけ語彙力を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発言をもとに、学習計画やめあて、まとめを決めて、主体的な学習につなげる。 何について問われているか、指示語は何を指しているか、キーワード等に、線や印をつけさせながら確認させることで、読解力を高める。 目的や構成を意識させながら作文や要約の書き方を繰り返し指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文や物語文に取り組む中で、簡単な要約や感想文を書く活動を取り入れている。慣れてきたら、条件付き作文へとステップアップする。 毎時間の学習で音読を取り入れ、「読む」ことへの抵抗感を少なくする。 「漢字の広場」などを利用して、作文活動をする中で、文法や文節にふれて定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の学習の中で、できるだけ書く活動を取り入れていく。その際、時間や文字数を指示し、条件をつけながら作文をさせる。また、書いたものを読み合わせる。 新出漢字が出てきたときには、いろいろな熟語を紹介し、漢字のもつイメージをふくらませる。 教材文の読み取りにおいて、同義文判定や照応解決を取り入れた発問をすることで、指示語や言いかえの表現に慣れさせる。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 問題文の数字を○で囲む、キーワードには波線をつける、図や絵に表す習慣をつける。 問題解決学習の流れを定着させる。 授業のはじめまたは最後に、反復練習に取り組み、早く正しく計算できる力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習の振り返りをし、前時の学習との違いから、本時のめあてを立て、これまで学習したことをもとに、解決する方法を考えさせる。 文章題には「大切な数字」「尋ねられていること」「答えの単位」に印をつけ、文章の意味を正しく理解する手がかりにする。 練習問題を解かせる時間をできるだけ多く設け、授業内での定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文の読み取りを必ずおこない、問題把握のやり方を身につけさせる。 問題を図式化させ、言葉ではなくイメージする力をつけていく。 まず自力で解決する姿勢を身につけさせ、粘り強く取り組む習慣をつける。 時刻と時間について、話題にし、児童一人一人が日常生活の中で練習に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを広げたりまとめたりするための意図的な発問や学びの場を仕組む。 説明する際に話型を活用させる等して、考えをまとめ、論理的に説明できるようにする。 毎時間自分の考えを書く活動を仕組み、図や文、式を使って友達に説明させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生のテープ図や表にまとめる学習の復習から入り、図を使うことの良さを再度理解した上で、どのような時にどのような図表を使うのが効果的かを授業の中で随時考えさせる。 授業の中でも、問題を解く際は、作図→立式→説明をセットにして取り組ませる。 題意の理解状況について、毎回確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の中で、式と解答とは別に、「考えの説明」を書かせるようにする。 問題把握の場面で、問題から得られる情報を積極的に伝え合う活動を行う。 話し合いの場においては、ただ答えを確認し合うだけではなく、「なぜそうなるのか」を式や表、線分図などを用いて説明し合う活動を設定する。